

事務事業マネージメントシート

作成日 令和2年 04月 30日

事務事業名	子供たちのアグリ体験学習推進事業				担当	産業部 農政課 農政係									
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり				増補版施策名									
施策名	1	農業の振興				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業									
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 真岡市食育推進計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ								
法令根拠	子供たちのアグリ体験学習推進事業費要綱						<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 平成15年度～)								
予算科目	1.一般会計	6.農林水産業費	1農業費	3農業振興費			<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度～ 年度)								
事業概要	真岡市食育推進計画における教育ファームの一環として、子どもたちが農作業の体験をとおして「作物を育てる楽しさ」、「収穫の喜び」、「生きるものの力」を学び、食と農業に対する理解を深めるため、市内小学校での農作業体験を支援する。市内小学校を対象に、農作業体験に要した費用の一部(45,000円)を限度として助成する。														

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 31年度実績 交付金交付事務 市 各小学校14校を対象。体験児童は、市内小学校12校が全児童対象。ただし、真岡西小学校(2学年と特別支援学級対象)と大内東小学校(4,5,6学年が対象)は対象児童が限られている。	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
2年度計画 前年度と同じ 市内小学校14校を対象	ア：交付額	千円	810	810	630	630	630
	イ：						
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市内小学校児童数 市内小学校	ウ：						
	エ：						
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 明日を担う子どもたちが農作業の体験等をとおして「作物を育てる楽しさ」、「収穫の喜び」、「生きるものの力」を学び食と農業に対する理解を深める。	オ：						
	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移						
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 食と農業の理解促進	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア：小学校児童数	人	4,603	4,520	4,491	4,478	4,460
⑤事業費の推移 事業費	イ：小学校数	校	18	18	14	14	14
	ウ：						
⑥上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移 事業費	エ：						
	オ：						
⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移							
⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移 事業費	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア：体験児童数	人	3,384	3,338	3,011	2,993	2,988
⑨人件費の推移 人件費	イ：実施小学校数	校	18	18	14	14	14
	ウ：						
⑩総事業費の推移 総事業費	エ：						
	オ：						

(2) 総事業費の推移

投 入 量	事業費 財源内訳	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	810	810	630	630
	事業費計(A)		千円	810	810	630	630
	人件費	正規職員従事人數	人	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	35	35	35	35
		人件費計(B)	千円	145	145	146	142
	トータルコスト(A)+(B)		千円	955	955	776	772

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか?	平成15年度から、子どもたちが農作業の体験をとおして「作物を育てる楽しさ」、「収穫の喜び」、「生きるものの力」を学び、食と農業に対する理解を深めるため県の事業として開始した。 平成15年度から3年間は小学校5校づつを対象に実施(補助金:1校100,000円)。平成18年度は全15校(補助金:1校50,000円)。平成19年度以降は真岡市食育推進計画に位置づける教育ファームとして、市単独事業(補助金:1校45,000円)で全小学校において実施している。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	平成29年度末、山前及び中村地区の小学校統廃合により、平成30年度から市内小学校が14校となった。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 子どもたちが農作業の体験をとおして「作物を育てる楽しさ」、「収穫の喜び」、「生きるもの力」を学び、農業に対する理解を深めるための事業であり市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 子どもたちが農作業を体験することにより、食と農業に対する理解促進を図るための事業であり公共関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 全小学校を対象に、食と農業の理解促進を推進しているので適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 小学校の授業時間を考慮すると、最大限の啓発活動であり成果向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 子どもたちに対し、食と農業の理解を促す機会が無くなるので廃止休止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 最小限の経費であり削減余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 最小限の人件費であり削減余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 事業の目的を達成するため必要な経費であり学校も負担している。 また、市内全小学校を対象としているので公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr></thead><tbody><tr><th>成果</th><td>向上</td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		コスト			削減	維持	増加	成果	向上			維持				低下			
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上																			
維持																				
低下																				
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																				

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr></thead><tbody><tr><th>成果</th><td>向上</td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		コスト			削減	維持	増加	成果	向上			維持				低下			
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上																			
維持																				
低下																				
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																				
(4) その他2次評価会議で指摘された事項																				